

◀ ニコニコ箱報告 ▶ 寺下能明 副会計

和歌山新報社 編集部・smart 事業部長 木村裕丞様：

卓話お礼は貴クラブの奉仕活動にお役立てください。

小林君：和歌山新報社 木村様 本日の卓話よろしくお願ひします。

土屋君：朝晩めつきり涼しくなってきました。

結婚記念日お祝い：中岡君、中曾君。



◀ 55周年 BOX ▶

小林君：趣旨に賛同して。

土屋君：わかやま新報 木村様 本日お越し頂きありがとうございます。卓話を楽しみにしています。

保田君：暑さ寒さも彼岸までと、今年はどうやらその様ですね。

寺下君：秋の気配がします。

♪ 9月 結婚記念日お祝い ♪ ♪おめでとうございます。♪



♪ ソング斉唱 ♪ 山田ソング委員長 「奉仕の理想」「結婚記念日の歌」



◀ クラブフォーラム 例会(会報・広報雑誌担当)委員会 ▶

外部卓話 「地方紙の役割と今後について～元記者の目から見る SNS 時代のオールドメディア～」

和歌山新報社 取締役編集局長兼 Smart 事業部長 木村裕丞様



地方紙の特徴、役割は大手新聞には取り上げられない地域の人にスポットを当て、その人の生きた軌跡、物語を報道するというのがあります。国政選挙や全国的なネタも重要ですが、もっと身近なニュースに目を向ける使命があります。

しかし近年、スマートフォンの普及による SNS の情報発信で新聞離れが加速しています。これはローカル紙だけでなく全国紙にも言えることですが、特にローカル紙にとって、昔は自分がみんなに知ってもらいたいことを発信する

すべは、取材を受けて紙面に載せてもらうことしかなかったのですが、スマートフォン1つで簡単に自分から発信できるようになりました。

今の時代「タイムパフォーマンス（タイパ=時間対効果）」を重視する傾向があります。タイパといえば、当然、AIの活用も効率化を図る上でなくてはならないものになりつつありますが、AIには苦手なところもあります。それは情報の発信と、人との縁をつなぐという分野です。広報物をAIで作成しても、それを多くの人に発信するすべはAIにはありません。広報物がきっかけとなり、人と人をつなげてくれるという力もAIにはないのです。

例えば今回、こうしてお話をさせていただく機会をいただきましたが、これは東南ロータリークラブさまのご厚意、これまでよくしていただいた縁がつないでくれたものであり、決してAIで吐き出されたものではございません。人と人がつながるといのは、時間は掛かりますが、地道に積み重ねなければならないことだと思います。タイパ重視の世の中ですが、人のご縁というものは、ショートカットすることなく大切に育てていきたいと思っております。

最後になりましたが、弊紙「わかやま新報」も地域に寄り添う信頼される地方紙になれるよう精進してまいります。引き続きご愛読いただきますようお願い申し上げます。本日は、貴重な機会をいただき、誠にありがとうございました。



《 第2回 和歌山市内9RC 会長・幹事会 》
2025年9月9日(火) 14:00~
1) 花いっぱい推進協議会へ協賛金贈呈
協賛金 270,000円 (30,000円 x 9クラブ)
贈呈：中村ガバナー補佐より



《 創立 55 周年 記念事業委員会 「熊の見学・生石高原」 》 2025 年 8 月 15 日
 参加者： 小林会長、55 周年記念事業委員会 土屋委員長、谷口副委員長、平副委員長

